

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

全日制普通科単位制高校として、高き志を胸に、変化の激しい社会の中で、自らの未来を切り拓き、個性と能力を発揮できる「天高く翔る」人材の育成をめざす。

(めざす生徒像)

- 1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できる生徒
- 2 解決すべき課題にしっかりと取り組むことができる生徒
- 3 主体性をもって多様な人々と協働できる生徒

2 中期的目標

1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できるよう「前に踏み出す力」を育成する。

- (1) 生徒が主体的に取り組む進路学習・キャリア教育を充実させる。
- (2) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図る。
- (3) 新学習指導要領・大学入試改革を見据えた校内体制・教育活動を構築する。

2 解決すべき課題にしっかりと取り組めるよう「考え抜く力」を育成する。

- (1) 学びの質の向上に向け、知識・技能の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの構築をめざす。
- (2) 学校行事・自治会活動・部活動等において、生徒の創意工夫をより引き出す取組みを進める。
- (3) カリキュラム・マネジメントを確立し、授業・評価及び組織運営の改善に取り組む。

3 主体性をもって多様な人々と協働できるよう「自立して歩む力」を育成する

- (1) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立をめざす。
- (2) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。
- (3) 地域や外部機関等を活用して、安心安全な学校づくりを推進する。

4 学校力の向上と効率的な学校運営

- (1) 教育目標の実現に向けた情報共有、OJT、教職員研修を充実させる。
- (2) 生徒の自己管理能力の向上と学校運営の効率化を図るための体制づくり、設備や情報基盤の整備を計画的に進める。
- (3) PTA・後援会・同窓会（鳳友会）等と連携した教育活動を充実させるとともに、教育活動の理解促進に向けた広報・情報発信に努める。

※ 国公立大学進学者（H29 54 名、H30 53 名、R01 44 名→50 名超維持）、難関私立大学合格者（H29 216 名、H30 177 名、R01 177 名→200 名程度）

※ ガイダンス・進路指導に係る生徒の満足度90%以上をめざし維持する。（ガイダンス H29 97%、H30 97%、R01 97% → 95%以上維持、進路指導 H29 H30 85%、R01 89% → 90%）

※ 授業理解の肯定的評価が80%以上をめざす。（H29 76%、H30 75%、R01 75% → 80 以上）

※ 生徒の自己管理能力の肯定的評価（H29 76%、H30 72%、R01 77% → 80%）の向上及び、生徒・教職員とのギャップを縮める。（H29 35p、H30 27p、R01 30p → 20 点以上未滿）

※ 生徒・保護者の学校満足度「入学して満足」が90%をめざす。（生徒：H29 78%、H30 80%、R01 78% → 85%超、保護者：H29 88%、H30 89%、R01 88%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1 生徒、保護者、教職員の回答結果比較 3者の回答傾向に大きな差は認められない。ただ、子どもの悩みの相談体制やいじめへの対応状況に関しては、保護者の肯定的回答が低い傾向にある。学校からの更なる情報提供について検討が必要である。</p> <p>2 クロス集計 「授業時間中は集中できている」に肯定的に回答した生徒程、学校への満足度や部活動との両立、休日学習を含む自己管理においても肯定的な回答を返すことが多い。</p> <p>3 経年比較と新型コロナ禍の影響 「学校に行くのが楽しい」「親身になってくれる先生がいる」「積極的に行事に参加した」等に対して肯定的に回答している生徒が例年よりも高くなっている。「学校のホームページをよく見る」保護者の割合は20ポイント上昇し、授業でICTを活用している教員は9割を超えた。</p> <p>4 教職員の世代間の違い 回答傾向に大きな差はないが、生徒の自己管理能力や学校の教育活動の在り方等、いくつかの質問で20代、30代の教職員に否定的な回答が多くなっていた。学校改善への意欲の表れと考えたい。</p>	<p>【第1回】 ・学校経営計画を経済産業省が提唱する「人生100年時代の社会人基礎力」と関連付けて説明した。本来は大学教育改革の中で用いられる概念だが、高大接続の観点から、高校の経営計画で意識することは意義がある。 ・今後、高校における観点別学習状況の評価を進めていかなければならないため、取組みが進んでいる中学校の状況の視察を依頼したところ、和泉市と堺市の中学校で実施していただけることになった。</p> <p>【第2回】 ・新型コロナ禍の中、多くの評価項目で改善・上昇の傾向となっていることは評価できる。 ・観点別評価の取組みは先進的で興味深い。今後も挑戦的に進めていくことを期待したい。</p> <p>【第3回】 ・令和3年度の経営計画は、社会人基礎力との関連性を明確にし、時代の要請に応える計画に変更され、取組計画も具体的な内容で分かりやすく、優れた計画になっている。 ・学校教育自己診断の詳細な分析を生かして目標設定を行うとよいのではないかと。 ・普通科単位制高校としての魅力を一層明確にすることが必要である。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できるような「前に踏み出す力」を育成する。	(1) 生徒が主体的に取り組む教育活動を充実させる。 (2) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図る。 (3) 新学習指導要領・大学入試改革を見据えた校内体制・教育活動への移行を図る。	ア 総合的な探究の時間、LHR等を改善充実させ、計画的に実施する。 (ア) 進路学習・キャリア教育の内容、実施時期・提供方法の工夫及び大学、教育産業等の活用 (イ) 長期休暇中等の講習を継続・充実 ア 生徒の進路意識を高め、最適な科目選択を行えるよう、生徒自ら進路の資料・情報を収集し咀嚼する機会を計画的に提供する。 (ア) 全教員によるガイダンス(年2回)及び科目選択申請書点検。 (イ) 学習や進路意識の診断結果等を活用した懇談・ガイダンスを充実させる。 (ウ) 専門家による説明会、講演会等を活用して将来のイメージを具体化させる。 (エ) 科目選択モデル案改善への取組 ア 委員会・WGでの検討・点検を進め、単位制の特色を生かした新教育課程を完成する。 イ 生徒の学びを記録する校内 system「o-p portfolio」の活用をさらに進める。 ウ 生徒の学習状況、進路等のデータ分析や情報共有を推進する。その際、外部テスト等も活用して効率・効果を高める。	ア (ア) 専門家等による進路講演・説明会の実施状況や課外の進路イベント等への参加状況 (イ) 生徒の講習への参加状況(3年75%、全学年43%) ア (ア) 生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をしている(74%) (イ) ガイダンスへの肯定的評価の維持(97%) (ウ) 将来の生き方や進路について考える機会の提供(89%) (エ) コース選択や進路情報の提供(84%) ア 総合的な探究の時間をはじめとする新カリキュラムとガイダンス資料等の作成状況 イ 生徒の学びを記録・活用するシステムの活用状況 ウ センター試験受験者の平均点が全科目で全国平均を上回る。	(1)ア【△】 (ア) 新型コロナウイルス感染症の影響により、説明会は規模を縮小。進路イベントの中止や長期休業の短縮により参加が困難であった。 (イ) 3年:46%、全学年29% (2)ア【○】 (ア) 67% (イ) 98% (ウ) 89% (エ) 88% (3)ア【○】 ・総合的な探究の時間 ⇒検討委員会を発足 ・新カリキュラム ⇒原案完成 ・ガイダンス資料 ⇒令和4年度の全面改訂に向け検討開始 イ【○】 ・1,2年は手帳形式、3年は学年独自のプリント形式で実施 ウ【△】 ・23科目中17科目で全国平均を上回った。
2 解決すべき課題にしっかりと取り組めるような「考え抜く力」を育成する。	(1) 学びの質の向上に向け、知識・技能の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの構築をめざす。 (2) 学校行事・自治会活動・部活動等において、生徒の創意工夫をより引き出す取組みの充実を図る。 (3) カリキュラム・マネジメントを確立し、授業・評価及び組織運営の改善を進める。	ア 校内教職員研修の充実 (ア) 総合的な探究の時間プロジェクトチームを核に、教科を超えた授業見学や若手教員の資質向上を図る取組みを推進する。 (イ) ICTの活用等をさらに研究し、主体的・対話的で深い学びや英語4技能育成のための授業実践につなげる。 ア 学校行事等の創意工夫 (ア) 生徒自治会・委員会の活動を中心に実施する。 (イ) 学年や学校行事等との連動を意識して実施する。 ア カリキュラム・マネジメントの推進 (ア) カリキュラム委員会、総合的な探究の時間やICT活用に係るプロジェクトチーム等を核に教育活動を俯瞰して検討を進める。 (イ) データ処理や情報共有を工夫して、授業アンケート、外部テスト等の結果を授業改善に生かす。	ア (ア) 教員相互の校内授業見学週間の実施 若手教員研修を核に校内研修・情報交換会を実施 (イ) 生徒の授業理解(75%) 生徒が自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある(教員73%、生徒質問の実施) ア (ア) 自治会活動の有用感(71%) (イ) 自分は積極的に学校行事に参加した(84%) ア (ア) 新しいカリキュラムの整備状況 教員のICT機器の活用[教材研究83%、授業61%] (イ) 外部テストの結果分析会等の実施状況 生徒の授業理解(75%)※再掲	(1)ア【◎】 (ア) 教員相互の授業見学週間を実施。また、ICT活用、観点別評価(試行)は、若手教員が授業実践と教員研修の中心となり取り組んだ。 (イ) ・授業理解 80% ・自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会 教員83%、生徒91% (2)ア【○】 (ア) 74% (イ) 88% (3)ア【○】 (ア) ICT活用 教材研究91%、授業72% (イ) 生徒の授業理解80%

<p>3 主体性をもって多様な人々と協働できるよう「自立して歩む力」を育成する</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立をめざす。</p> <p>(2) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。</p> <p>(3) 地域や外部機関等を活用して、安心安全な学校づくりを推進する。</p>	<p>ア 日常の指導と強化週間とを効果的に連動させる。 (ア) 登下校時の安全指導（特に自転車指導）の継続 (イ) 「朝の読書」の時間やSHRの活用 (ウ) 「集中と切り替え」を指導し、学習活動と部活動・学校行事の両立を図る。</p> <p>ア 人権HR、人権映画鑑賞や教職員研修を柱に据えて取り組むとともに、生徒・教職員の相談システムの点検を行う。 (ア) 薬物乱用防止等の喫緊の課題への取り組みを継続する。 (イ) 学校行事、オーストラリア国際交流研修、スピーチコンテストやプレゼンテーション大会等を活かして、多様な価値観に触れたり、協働したりする活動を設定し、コミュニケーション力を高める。</p> <p>ア 社会貢献の機会を積極的に提供し、推進する。 イ 教育相談委員会やスクールカウンセラーとのケース会議を通して、課題を抱える生徒の情報共有、適切な対応を進める。 (ア) 教育相談室を生徒にとってさらに安心できる場所となるよう充実を図る。</p>	<p>ア (ア) 学校は基本的な生活習慣の確立に力を入れている(83%) (イ) 遅刻登校者数を3000件未満維持(2,984件) (ウ) 生徒の自学自習時間の向上(平日1~2時間29%、2時間以上39%) 部活動加入率(86.5%) 学習と部活動の両立ができている(64%) 生徒の「自己管理能力は十分にある」の維持と教職員とのギャップを縮小(生徒77%、ギャップ30ポイント)</p> <p>ア 生徒・教職員の人権教育行事、教育相談委員会・ケース会議と教職員研修の実施状況。 (ア) 薬物乱用防止等喫緊の課題への対応状況 (イ) 国際交流研修、スピーチコンテスト、プレゼンテーション大会等の実施状況</p> <p>ア 「ボランティア活動が活発に行われている」[教員35%] イ (ア) 「悩みが相談しやすい」(47%)</p>	<p>(1)ア【○】 (ア)87% (イ)2,617件 (ウ) ・自学自習時間 1~2時間 31%、+2p 2時間以上 42%、+4p ・部活動加入率88.9% ・学習と部活動の両立70% ・自己管理能力 生徒78%、ギャップ18ポイント (2)ア【○】 ・人権教育行事 例年通り ・教育相談委 月1回 ・ケース会議 2か月に1度程度開催 ・教職員研修 ICT活用、観点別評価、同和問題をテーマに実施 (ア)1年と3年に各1回実施 (イ)国際交流研修⇒中止 他の行事は規模を縮小して実施 (3)ア【○】 ・ボランティア活動 36% イ(ア)51%</p>
<p>4 学校力の向上と効率的な学校運営</p>	<p>(1) 教育目標の実現に向けた情報共有、OJT、教職員研修を充実させる。</p> <p>(2) 生徒の自己管理能力の向上と学校運営の効率化を図るための体制づくり、設備や情報基盤の整備を計画的に進める。</p> <p>(3) PTA・後援会・同窓会(鳳友会)等と連携した教育の充実、並びに生徒募集・広報活動の充実に努める。</p>	<p>ア 新学習指導要領の円滑な実施に向けて、カリキュラム・マネジメントを組織的に進め、効果的な教育活動・効率的な業務となるよう改善充実を図る。</p> <p>ア ICT・ネットワークシステムの整備・活用により、生徒状況や生徒指導・進路指導等のデータベースの活用、会議の効率化やペーパーレス化を進める。 (ア) 月毎の時間外労働の把握と必要に応じて縮減に向けた指導を継続して行う。</p> <p>ア リニューアルした学校HPを活用し、緊急連絡方法や広報活動の充実に努める。 (ア) 生徒や保護者との相互連絡システムの再構築 (イ) こまめな更新ができるよう学習会を開く。 (ウ) 創立100周年記念事業の具体化と発信 (エ) 地域や中学生等への広報の充実</p>	<p>ア 新しいカリキュラムやガイダンス資料等の整備状況</p> <p>ア ICTや各種データベースの整備状況(教員のICT機器活用状況を全国レベルに[教材研究83%、授業61%] (ア) ノークラブデー等の完全実施。 月80時間以上の時間外労働教職員数及び産業医からの評価</p> <p>ア (ア) 生徒・保護者との新しい連絡ツールの整備状況 (イウエ) 学校HPの利用状況の向上 保護者「よく見る」[38%] 教員 「活用されている」[69%]</p>	<p>(1)ア【○】 新カリキュラムの原案は完成。ただし、学校設定科目の詳細、令和7年度大学入学共通テストの実施内容に応じた変更等は検討の余地あり。令和4年度の新課程に合わせてガイダンス資料も刷新する予定で検討中。 (2)ア【○】 教材研究91%、授業72% (ア)・ノークラブデーは完全実施 ・月80時間以上の時間外労働⇒13名(昨年度より-2) (3)(ア)【◎】 生徒全員がGoogle Classroomに登録し、HRや授業で活用している。令和3年度から保護者にもGoogle Classroomの活用を広げることと決定。 (イウエ)保護者58%、教員82%</p>

※ () 内は昨年度の生徒の肯定的評価の割合